

令和6年度第1回立科町テレワーク推進会議 議事録

会議概要

開催日時：令和7年2月18日（火）13時30分から15時30分まで

開催場所：立科町テレワークセンター（オンライン同時開催）

1 開会（司会：立科町竹重企画課長）

みなさま、改めましてこんにちは。

本日はご多用のところお集まりいただき誠にありがとうございます。ただいまから、「令和6年度第1回立科町テレワーク推進会議」を開会いたします。私はしばらくの間、会議の進行を務めます、立科町企画課長の竹重和明と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず、資料の確認をお願いいたします。

【資料確認】

また、本日の会議は後日議事録を作成して、資料とともに、立科町ホームページで公開いたします。担当から議事録の確認をさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進行させていただきます。

はじめに、立科町長両角正芳からあいさつを申し上げます。

2 あいさつ（立科町 両角町長）

ただいまご紹介に賜りました立科町長の両角正芳でございます。本日はみなさまがた、大変お忙しいなか、お時間を割いていただいたことに感謝申し上げます。本日は新たに委員を任命させていただき会議を開催させていただき運びとなりました。ご参集のみなさまにはそれぞれのお立場で会議の趣旨をご理解いただき、委員をお引き受けいただきましたことに、重ねて御礼を申し上げます。

立科町のテレワーク事業においては、ご案内のとおり、多くの住民がワーカーとして活躍をしていただいておりますけれども、その大半の方はこれまでの雇用形態では働くことができなかった方々でございます。時間や場所にとらわれない働き方を推進することが地域住民の活躍の場を広げるだけでなく、人材不足に悩む企業のみなさま方にとっても一つの解決策を提示するものであると認識しているところです。

また、併せて、首都圏の企業の方々と町の関係性を築き、町と企業それぞれにメリットを見出す取組についても成果について共有させていただきたいと考えています。

この事業はこれまでの関係自治体や企業のみなさまといたった多くの方々のご指導やご支援をいただいたおかげをもちまして、全国的に注目される取組に成長してまいりましたが、ここから先はより安定的かつ持続的に事業が続けられる体制づくりが重要であると考えております。そのため、この会議において4月に設立を予定しております一般社団法人立科町振興公社について概要をみなさま方にご説明させていただきますが、この公社はこれまでの取組をさらに発展させるためには欠かせないものでございます。会議においては遠慮なくご意見とご助言をいただければ

ば幸いに存じます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(司会：立科町竹重企画課長)

町長は、他の公務のためここで退席となります。

3 委員紹介

それでは、本日お集まりいただいた皆さんの中には、初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

先ほどの委員名簿をご覧いただき、尾形様から順にお願いいたします。

(尾形委員)

改めまして、尾形誠治と申します。よろしくお願ひいたします。ネットワークシステムズの中中部支社に所属しておりまして、日ごろは自治体様や教育委員会様の DX 推進の支援を生業としております。今日はその立場ではなく、総務省の地域情報化アドバイザー、あるいはテレワークマネージャーもやらせていただいているのですが、その立場で参加させていただいています。他には日本テレワーク協会のサードワークプレイス研究部会などもやらせていただいています。

立科町様とは、平成 30 年の総務省のふるさとテレワーク推進事業でご縁ができて、塩尻市さんとマッチングしてノウハウを共有いただいた所書き脚気でございます。引き続き、いろいろと実証事業をさせていただいて、昨年度はテレワークを活用した地域課題解決の実証事業をさせていただき、今年度はサードワークプレイス研究部会の立科合宿をさせていただきました。

このテレワーク事業が新たなステージに入られるとお聞きしていますので、何らかのお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

(小澤委員)

総務省の地方公共団体の経営財務強化マネジメント事業の DX 関連のアドバイザーをさせていただいている小澤と申します。所属は塩尻市になります。以前の広域連携会議などで立科町さんにはお世話になっておりまして、テレワークの研修会に講師で呼んでいただいた記憶がよみがえっております。これからよろしくお願ひします。

(篠原委員)

立科町商工会の事務局長の篠原と申します。よろしくお願ひします。今商工会ではちょうど申告の締め切り 3 月 17 日でやっているところで、テレワーカーさんの決算申告のほうも結構相談を受けていまして、このテレワーク事業がさらに発展して、商工会も忙しくなればいいと思っています。今日はよろしくお願ひします。

(金子委員)

信州たてしな観光協会の事務局長金子でございます。去年の 7 月から観光協会でお世話になっていまして、その前は女神湖のホテルでずっと勤務しておりました。高原の施設の方とは多岐にわたってご相談させていただいていますが、里のみなさまとはなかなかお話がきれいなとこ

ろがありますので、どうぞよろしく願いいたします。

(内藤委員)

立科町社会福祉協議会の内藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

社会福祉協議会ですので、福祉や障がい者の方たちの関係でテレワーク事業にかかわらせていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(降幡委員)

一般財団法人塩尻市振興公社でテレワーク事業のマネージャーをしております降幡と申します。よろしく願いいたします。塩尻のKADOというテレワーク事業部では、1月から内部の体制が少し変わりまして、公共チームという形で自治体関係の事業等のリーダーの立場となります。どうぞよろしく願いいたします。

(日下部氏：中嶋委員代理)

立科町さんとは令和5年に女神湖のコワーキングスペースを視察させていただき、また、自営型テレワーカーの育成に関して研修会で事例発表をいただいております。今年度も自営型テレワーカーの育成に関する勉強会を開催させていただきまして事例発表をいただいております。今後ともよろしく願いいたします。

(鷹野委員)

長野県佐久地域振興局企画振興課長の鷹野と申します。私ども長野県の現地機関といたしまして、メニューとしては地域発元気づくり支援金がございますが、町さんの取組を支援してきた経過がございます。また、昨今レイクリゾート構想といった形で茅野市側とも組んで動いていらっしゃるところでございますが、地域づくりの観点で振興局のほうでかかわっているところでございます。今後もテレワーク事業の推進ということで引き続き支援していきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

(今井(清)委員)

立科町の議会議長をしております今井と申します。なかなか立科町は人口減少のまっただ中におりまして、テレワーク事業というのはひとつの働く場所の確保対策にとっても有効だと考えています。特に女性のみなさんがテレワークを通して働いていただいて、町の振興につなげていただければありがたいなと思っております。これからますますみなさんのお力を貸していただいて働く場所の確保対策と合わせて皆さんの希望の持てる町にしたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。今日はありがとうございます。

(司会：立科町竹重企画課長)

10番の町議会総務経済常任委員会の今井健児様は本日所要のため欠席のご連絡をいただいております。

また、本日は、オブザーバーとして、総務省信越総合通信局情報通信振興課課長の新納様、一

般財団法人全国地域情報化推進協会企画部担当部長の澤田様、株式会社信州たてしな DMC 渡邊様、雇用創出型テレワークの住民ワーカーを代表して牧内さんと海野さん、以上 5 名の方にご参加いただいています。また、町からは副町長の小平、事務局についてはご覧のメンバーになりますので、どうぞよろしく願いいたします。

4 会長及び副会長の選出

次に次第「4 会長及び副会長の選出」でございますが、みなさまのお手元に立科町テレワーク推進会議規則をお配りしております。この中で会長と副会長の選出につきましては、第 6 条において「推進会議の会長及び副会長をおき、委員の互選によりこれを定める」ことになっております。どなたかにお願いをさせていただくこととなりますが、事務局から腹案がございますので、申し上げてもよろしいでしょうか。（異議なし）

事務局案として、会長には、これまで当町のテレワーク事業に関してご助言を多くいただき、また、全国の自治体におきましても支援実績をお持ちの総務省地域情報化アドバイザーの尾形委員、副会長にはこれまでの会議体にご参加いただき、数多くのご助言を頂戴しております立科町商工会事務局長の篠原委員を推薦させていただきます。

みなさま、ただ今の事務局案をご承認いただけますでしょうか。

（拍手）

ありがとうございます。それでは、会長は尾形委員、副会長は篠原委員となりましたので、どうぞよろしく願いいたします。会長と副会長からひとことご挨拶をいただきたいと思っております。

（会長：尾形委員）

それでは、僭越ながら会長を務めさせていただきます尾形と申します。どうぞよろしく願いいたします。先ほど申し上げましたけれども、長年一緒に取り組ませていただきまして、今回新たなステップに踏み出すという大変喜ばしい年に、こういった役をやらせていただくことに、とても期待いっぱいでございます。みなさまのご協力のもと、この回を盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

（副会長：篠原委員）

副会長尾を仰せつかりました篠原です。会長を補佐する立場ではありますが、しっかりと務めさせていただきます。みなさまどうぞよろしく願いいたします。

（司会：立科町竹重企画課長）

ありがとうございます。これより「5 会議事項」に入りますが、ここからの議事進行は会長にお願いいたします。

5 会議事項

（1）立科町テレワーク推進会議について

（会長：尾形委員）

それでは次第に則って、事務局から説明をお願いします。

【事務局から、資料1について説明】

(会長：尾形委員)

それでは、ご質問、ご意見などございますでしょうか。

(特になし)

(2) 令和6年度事業の取組状況について

(会長：尾形委員)

よろしいでしょうか。それでは次に「令和6年度事業の取組状況について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局から、資料2、3について説明】

【信州たてしな観光協会から、資料4について説明】

(会長：尾形委員)

ご説明ありがとうございます。それではただ今の説明にご質問はありますか。

(今井(清)委員)

いくつかお伺いします。資料2の「企業訪問」についてですが、仕事がないといけないと思うのですが、新規開拓については、どんな企業に対してどんな方法でされてきたのかお伺いします。

(事務局)

企業訪問につきましては、アドバイザー様のご紹介で県内大手製造業の取締役にご説明とお願いをさせていただいた。また、大手人材派遣会社にも訪問し、事業の協力をお願いさせていただいている。

(今井(清)委員)

立科町議会では、友好都市の愛川町や清瀬市を訪問している。多くの企業があるので、友好都市関係を通じて企業訪問をして仕事の受注体制があればいいと思う。

受けられる仕事に中身によって変わってくると思うが、そういったところを通じて新規開拓する予定についてはありますか。

(事務局)

機会を見つけてお伺いできればと思っています。

(今井(清)委員)

登録ワーカーの人数は、実際に受託している、仕事をしている人たちについて伺いたいのと、実際にそれぞれのワーカーさんの中で収入面がどうなっているのか公表できるのであれば教えてください。

(事務局)

資料3の2ページ目下部に、稼働ワーカー数を記載させていただいている。今年度は38名の方が稼働している。お一人お一人の収入までお伝えすることは難しいが、平均では年額42万円となる。先ほどの商工会事務局長からもお話が合ったように、収入が多い方は事業主登録をしているということですので、幅があると思っている。

(今井(清)委員)

ワーカーさんそれぞれは、事業主になるのか。

(事務局)

参考資料の15ページ目になりますが、立科町のワーカーは全員が個人事業主になります。個人事業主に対しまして法人から仕事を出すことは難しいですので、間に公社、法人格を持つ団体が入って、業務がしっかりと進むことを担保しているという形になります。ワーカーさんは個人事業主ですから、稼いだら確定申告をしていただくよう伝えている。

(会長：尾形委員)

とてもいいご質問をいただきました。稼働ワーカー数が38名ですから、登録ワーカー数に比べたら半分くらいですね。まだまだ仕事をしていただけたところかと思います。年間の受託額が一人当たり42万9千円ということは、扶養の範囲ですね。先ほど説明にもありました通り、太い仕事が欲しい、期間が長くて継続的にできる仕事が必要ということですね。

他にご質問などございますか。

私のほうからですが、受注額が伸びていることはとても望ましいと思っています。立科町からも79万円出ている。これは私も今まで自治体から仕事を出してほしいと言ってきたことなので、とてもうれしいこと。差支えない範囲でよいので、どういった部署からどのような仕事が出てきているのか教えていただきたい。

(ディレクター牧内さん)

立科町からは、農業委員会の議事録、定額減税の封入作業・仕分け・登録作業、広報物の作成、地域公共交通の乗降実績のデータ入力があります。

(会長：尾形委員)

ワーカーさん12名が携わっていることなので、多くの方が入っている。これは、多くの部署からきている仕事なのですか？

(ディレクター牧内さん)

企画課、農林係、町民課となる。

(今井(清)委員)

お願いできる業務は各担当で考えていると思いますが、企画課から案内は出しているんですね。もっと出していただくように。

(事務局)

年に数回、特に予算要求がこれから始まるタイミングでは、ワーカーへ出せる業務の洗い出しをお願いしています。ただ、議事録の作成はワーカーさんに出していたものもあったが、議事録作成ツールの導入で申し訳ないところもある。

(会長：尾形委員)

立科町さんのほうでもご協力をいただいているということだよくわかりました。できれば、もっと幅広く、協力して仕事が出てきたらと思います。

また、私のほうでは、日本テレワーク協会の部会において、合宿を女神湖でさせていただいた。そのときには観光協会様には大変お世話になった。いろんな面倒を見ていただいて、テレワーク協会の仲間も喜んで帰った。これはほかの自治体ではない取組で、雇用創出型テレワークと企業進出型テレワークの二つが両輪として回っている極めて稀有な事例だと思っているので、どっちがどっちを引っ張るのではなく、両方が機能しているので、これはぜひ進めていってほしい。総務省さんだけではなく、観光庁さんも注目をしている立科町になっているので、特筆すべきことだと思います。

最近ニュースでも出たが、国が作ったコワーキングスペースのほとんどが使われていないという悲しいニュースがあったが、観光協会さんの資料では高い数字になっており、作っただけではなく利用されている。宿泊と仕事の分離という話もあり、宿泊するところにも効果があるという説明がとてもよかったと思う。

(3) 一般社団法人立科町振興公社の設立について

(会長：尾形委員)

それでは、次に「一般社団法人立科町振興公社の設立について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局から、資料5について説明】

(会長：尾形委員)

ご説明ありがとうございました。それではただ今の説明にご質問はありますか。

(今井(清)委員)

常勤2名が町の職員から派遣となることを伺っております。町の職員の立場は地方公務員だと

思うが、法人の社員となった場合、地方公務員であり社員ということはよいのか。

(事務局)

一般社団法人の「社員」は、株式会社でいう「株主」にあたります。雇用された従業員とは異なります。運営の体制として理事と事務局長は町からの派遣となり、地方公務員の派遣に関する法律に基づいた条例改正を行って、派遣できる体制を整えたいと思っています。

(今井(清)委員)

職員 2 名の給与については町からの支払いになると思うのですが、財政支援をしているという形になるわけです。この法人について、儲かったときは支援分を町に戻すという考えはあるんですか？

(事務局)

運営が安定してくれば、町からの財政支援や人的支援に関する部分は法人の収入で賄うことが可能であると考えていますし、目標にしているところ。

(今井(清)委員)

町の負担金の見込額、人件費を除くということは、人件費以外の部分の負担金を町が支払うという中身と思うが、2、3 年目の計画では、負担額が減ってくるという予定だがこの積算根拠について伺いたい。

(事務局)

受託業務の量が増えていくことで利益率が高まることができるということで負担金をそこまで入れなくても賄えると考えて算出している。

(鷹野委員)

長野県にもいろんな外郭団体がありますが、個人的には一般社団法人自体は親近感があるものの、法人立上げとなると経験があまりない。定款の案を拝見したところ、賛同して入社したものを社員とするということだが、想定している社員さんはどんなところで見込まれていらっしゃるのか話せる範囲でお伺いしたい。

(事務局)

社員 2 名につきましては、今のところ、町の理事者が 1 名。商工会から会長職で 1 名となる予定です。

(鷹野委員)

そうすると、その 2 名で十分でありそれ以上は望まないという考えでよろしいでしょうか。

(事務局)

今のところは、最小の人数で立ち上げたいと考えております。

(鷹野委員)

社員さんを募ってやりたい人を集めることもあるのかなと思っていたので、その後の環境の変化によって変わってくる場合もあるのか伺いたい。

(事務局)

そのときの、町の考え方にもよると思うが、今後の状況によると思われる。

(内藤委員)

事業スケジュールには、「障がい者ワーカー」に関する記載があるが、その詳細を教えてください。

(事務局)

当初この事業は「社会福祉型テレワーク」としてスタートして、多様な方々が仕事を通じた社会参加ができるようにするというビジョンを掲げてやってきた。そのビジョンについては変える予定はなく継承していく予定です。その中で、これまで障害をお持ちの方のテレワーク事業における就労にチャレンジしてきた経過はある。ただ数名実践したが長く続かなかった事情がある。それは現場の体制が整わなかった。きめ細かいケアができなかったことが原因。

新しい会社においてもしっかりと見据えてやっていきたいという思いで再度挑戦したい。その際には、社協様とも定期的に打ち合わせをしてこの制度で働ける方が生まれてくるようにしていきたいのでよろしくお願いします。

(鷹野委員)

ワーカーさんの独立という話もありましたが、この振興公社としてワーカーを育てていかなくてもいけない中で、悩ましいところもあるなと感じました。その点の公社の運営については、理事会含めて大変な部分もある。独立していただく町と町の産業発展に寄与するものですし、商工会さまとしても大いにうれしいことだと思いますし、町のほうでも望むべきところだと思います。そういったことも含めて公社さんの今後の手腕が問われるところかと思いますが、期待しています。

(会長：尾形委員)

今までの受注金額が落ちた要因の一つにワーカーさんの独立がありました。しかしながら、収支計画の中では伸びていく形を維持することになりますが、利益を出しながら、独立される方を育てていくことのバランスをどのように取っていくのか、これからの運営の課題の一つかなと思います。

(4) 委員のみなさまから

(会長：尾形委員)

これまでの議事が終了しましたが、ここで委員のみなさまから情報提供などあればと思います。

(県労働雇用課 日下部様)

労働雇用課の事業についてお時間をいただきまして、ご紹介させていただきます。

【資料「県労働雇用課提供資料」について説明】

(信越総合通信局 新納様)

本日はオンラインで失礼しております。

総務省信越総合通信局では、平成 30 年度からふるさとテレワーク推進事業を活用いただいてテレワーク拠点整備を支援させていただいてから立科町様の取組をずっと応援させていただいて、一昨年には信越総合通信局長賞をお贈りし、昨年度は実証事業に参加いただいているところです。

今日のご説明を伺っていて、ついに振興公社の立ち上げに至られたということで大変うれしく思っているところです。

本日は、資料を共有させていただいて国の動向や施策をご紹介させていただけたらと思っています。

【資料「テレワークを活用した地域における雇用創出への期待」について説明】

(会長：尾形委員)

ありがとうございました。最後に私からも資料を共有させていただきます。

【資料「尾形委員提供資料」について説明】

それでは、そろそろ時間になり、次第のメニューはすべて終了しましたので事務局にお返しいたします。

(司会：立科町竹重企画課長)

尾形会長には、スムーズな議事進行をいただきありがとうございました。また、オンラインのみなさまも含めまして、2 時間を超える長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。

ただいまの議事にありました通り、雇用創出型テレワークに関する取組は新たに設立する一般社団法人に移行していくこととなりますが、みなさま方には引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

それでは以上を持ちまして、令和 6 年度第一回立科町テレワーク推進会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。